

千里キリスト教会 主日礼拝説教

日 時 2017年10月01日

聖書箇所 I テサロニケ 05 : 19~28

説教主題 「主が完全に守られる」

説教者 徳本 篤

序 論)

テサロニケ第一の手紙も今日で最終部分を迎えました。私たちがあがる機会をとらえて人生のリセットを考える時に、もう一度振出しに戻るという意味でリセットされる場合と、もう一度ゴールに焦点を合わせ直すという意味でリセットされる場合とがあると思います。今日の聖書箇所注目したいことは、後者の方です。リセットすることで自分の目標が再びはっきり見えるようになること。自分のやるべきことの意味が分かるようになります。今日のメッセージのポイントはリセットされることです。

9月18日は敬老の日でした。総務省の報告によると、現在100歳以上の人口は61,568人だそうです。さらに65歳以上の人口は34,610,000人（総人口の27.3%）だそうです。4人にひとりが65歳以上ということになります。平均寿命の延長と並行して高齢化社会の問題がさらに深刻になっていくことでしょう。

東京お台場にある「日本科学未来館」の入場券の裏に「永遠に生きられたら、永遠に生きるだろうか。」という質問が書かれていることが話題になっています。意外な結果が返ってきました。NOと回答した人が回答者の67%だったそうです。その主な回答は、生きる目標もなくただ永遠に生き続けることが不安であり、永遠に生きることそのものにどんな意味があるのか疑問を感じる。ということだったそうです。

本 論)

今日の聖書箇所である5章23節に「主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。」と書かれています。

完全に：アメンプトスとは、非難すべき理由が見つからないことをあらわしています。それで完全と翻訳されたわけですが、このことばの意味を考える時に、どうしても思い起こされる聖書の箇所があります。創世記1章31節です。そこには「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。」と書かれています。神が天と地を創造された時、それは「非常に良かった」のです。「非難すべき理由が見つからない」というのと同じ状態のことです。従って再臨の時に私たちが神から賜う復活の姿は、身体の部分も、精神の部分も、たましいの部分も、すべてにおいて創造された時の状態に完全にリセットされることをあらわしているのではないのでしょうか。

適 用)

19世紀の人々は科学の発展とともに未来はますます進化し、数千年前の古代人が考え出した信仰は捨てられ、やがて人々から忘れ去られていくと考えられていました。しかし、21世紀の現在は、その時代よりもさらに聖書の記録が事実であるという実感を帯びてきました。

その事例の一つが、2006年に、京都大学の山中伸弥教授らのグループから世界で初めて公表されたマウスIPS細胞の誕生とその研究の成果です。山中教授は2007年11月に人間の皮膚細胞からヒトIPS細胞の作製に成功したと発表されました。理論上では、身体を構成する細胞であれば、IPS細胞はどのような細胞も作製できると言われていました。ところで、創世記2章22節には、アダムの肋骨からエバが造られた記録があります。まさに、山中教授たちのIPS細胞研究の先駆けではありませんか。

応 答)

最初に今日のメッセージのポイントはリセットされることだと言いました。将来の自分の姿をゴールと定めるなら、現在の生活がそのゴールとうまく焦点が合うようにチェックする必要があります。

最近趣味のために中古の一眼レフカメラを購入しました。その望遠レンズは 11 枚のレンズで構成されています。一つ一つがうまく連動して遠くにあるものを目の前に引き寄せてくるのですが、ファインダーにクローズアップされた美しい画像が映ると、その素晴らしさに思わずハレルヤと神を賛美したくなります。今年の秋に出かける楽しみがまた一つ増えました。

ヘブル 11 章 1 節にはこう書かれています。「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」パウロが語る、喜び、祈り、感謝、御霊、聖書、誘惑への警戒、平和、聖さ、兄弟愛を望遠レンズにたとえるなら、そのレンズ一つ一つをうまく連動させて私たちのゴールを覗いてみましょう。栄光に輝くキリストと、その周りの聖徒たちの讚美している姿が目の前に引き寄せられてきたなら、その映像を見た人はハレルヤと神を賛美したくなるでしょう。信仰のチェック アンド リセット。これはつねに私たちに必要なのです。